すぎなさん

三宅小学校同窓会 会報誌
平成28年3月17日発行
三宅小学校全校児童数　１０２名（男51名 女51名）平成28年3月17日現在
第11号

ご 挨 拶

三宅小学校同窓会長　辻本峯雄（第48回 昭和32年卒 井ノ口区）

同窓会員の皆様におかれましては、愈々ご隆昌のこととお慶び申しあげます。平素より同窓会に対し深いご理解と温かいご支援・ご協力を賜り心より厚くお礼申しあげます。

さて、現在三宅小学校におきましては、「コミュニティ・スクール」と称し、先生方を始めＰＴＡの方々や公民館・地域ボランティアの方々等地域の皆様の熱心なご指導により、「三世代交流まつり」を始め課外授業としての様々な行事が実施され、児童たちにとっては大変興味深く貴重な体験となっております。地域と学校・児童たちとの絆を強く感じると共に、改めて三宅小学校が地域の多くの皆様に支えられていることを認識いたしました。

同窓会といたしましても、地域における過疎・高齢化や少子化等の問題はありますが、今後とも三宅小学校との連携を密にし、引き続き地域の皆様の温かいご支援をいただき、子どもたちの健やかな成長を願い、先生方や保護者の皆様と共に取り組んで参りたいと思います。

結びに当たり、同窓会員の皆様の益々のご発展をご祈念申しあげますと共に、三宅小学校に対しまして更なるご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげご挨拶とさせていただきます。

三宅の宝

三宅小学校長　上野庄一

三宅小学校同窓生の皆様方におかれましては、日々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。日頃は本校の教育活動に何かとご支援ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

今年度は107回目の卒業生を送り出す年です。今年度もまた地域の皆さんにお世話になり支えられて子どもたちが多くのことを学ばせていただきました。ふるさと再発見で「ふるさとを知り」、三世代交流まつりで「地域の人とのふれあい」ができました。このようなことを通して、ふるさとを愛し大切にしていこうとする心をいつまでも持っていってほしいと思います。

今日、高度経済成長、少子高齢化社会等社会状況が大きく変化しています。中でも、情報化においてスマートフォンやインターネット等の広がりは特に速いものがあります。大変便利なものである反面危険を伴うことも多くあり、子どもたちに及ぼす影響は大きなものがあります。本校では、これらの取り扱いを考えるために、「みやけスマートルール」（①午後8時まで、②1日1時間、③親や先生に相談）を決めて取り組んでいます。また、上中中学校と連携して「ノーメディアデー」（テレビ・ゲーム等をしない日）にも取り組みました。家族で生活リズムや時間の使い方等、いろいろと考えるのにいいきっかけとなりました。

子どもは三宅地区の「宝」です。三宅地区の素晴らしい環境の中で育てられている子どもたちですが、大きく変化する社会で課題も出てきています。三宅小学校の子どもたちの健やかな成長のために、同窓会の皆様をはじめ地域とのつながりを大切にし、いろいろな教育活動を推進して参りたいと考えております。会員の皆様方には今後共何かとお世話になりますが宜しくお願い申し上げます。

同窓会便り

当時を顧み今思うこと

第５３回（昭和３６年度）卒業生 三木好子（旧山谷：天徳寺）

「すぎなさん」なんとなつかしい響きのある言葉でしょう。これだけで小学生時代のことが次々とあふれんばかりに思い出されます。

昭和31年4月、入学時48名でした。満開の桜の前で緊張した面持ちで写真に収まっています。戦後第一次ベビーブームと言われた頃、全校児童数ももっとも多かった時代ではないでしょうか。教室の机も後の方まで一ぱいでした。コの字型の木の校舎で、向かって左側の教室が比較的大きかったのか、一階、二階と行き来したと記憶しています。その奥に宿直室が有り、5，6年の頃は、当時の担任をしていただいていた今は亡き福田善正先生が宿直の時は、よく遊びに行ったものです。入学した当時は無かった制服が三年の頃、女子のみ白い丸衿をつける上着になりました。今のように皆がカメラを持つ時代ではなく、写真が少ないのですが、誕生日に学校にて写真を写して頂いたこと、先生のご好意だったのでしょうか、ありがたく貴重な記録として大切にしています。

6年間一緒にすごし、少々のケンカはあったものの、今のようなイジメという言葉も知らず、男女とも「〇〇ちゃん」と呼び合い、男女関係なく相撲をしたこともなつかしいです。

約40年間大阪にて過ごし天徳寺に帰って来てこの春で6年になります。お正月、お盆、連休、冠婚葬祭等折々に帰省しておりましたが、用事がすめばとんぼ帰りでした。その間同級生ともほぼ顔を合わすこともなく過ぎていました。帰って来てから、生まれ育った故郷は何ものにも代えがたく、水がおいしく空気がおいしい、空がきれいで、地域の人達のふれあいが熱く、そしてなにより小学生時代の同級生に会えることの喜び。一瞬にしてあの頃にタイムスリップ「〇〇ちゃん」と数十年ぶりに会っても呼び合えることが本当にうれしいです。また、当時いろいろ教えをいただいた鹿野先生に縁あって今、習字を御指導いただいています。なつかしい方々との再会を楽しみに・・・。

卒業生なら誰でも分かるすぎなさん。この心地よい響きがいつまでも続きますように願っています。

１９７５

第６７回（1976年3月）卒業生　　中西昭彦（天徳寺）

私の記憶が正しければ、三宅小学校の現在の体育館が建てられた年に最初に新しい体育館で卒業式をしたのが私たちだったように思います。なので、今思い出すのは以前の「木造の講堂」でのことばかりです。当時の「木造の講堂」の窓ガラスは強度も弱く少しボールが当たるだけですぐ割れてしまいました。たぶん誰もが6年間で一度は先生に叱られた経験があると思います。また、床は今のように運動用フローリングではなく、ただ単に板張りで、その床を掃除の時間に雑巾を水で絞って、皆並んで一斉に拭いていたことを思い出します。その講堂で縄跳びや卓球などをしましたが、一番良く遊んだのが、ハンドベースボールだったと思います。昼の休み時間や放課後になると、1分でも時間が惜しくて、廊下を早歩きして講堂に向かったことを思い出します。現在の体育館にも私と同じようにそれぞれの思い出があることでしょう。その体育館も4～5年前に耐震補強工事をして再生したかと思いますが、そのころ私はうつ病に苦しんでいました。私も修復が必要な時期だったようです。そのことで多くの仕事を失いましたが、幸いにも今は修復作業も終わって、体育館と同じようにすっかり再生できたようです。

私たちが4年生の時に、当時（40年以上前）ではたぶん珍しかったと思いますが学級崩壊を経験しています。まだ、そんな言葉がなかったころです。私たちが先生に反抗して授業をさせなかったのです。何故そんなことになったかは今でも誰にも分からないことと思いますが、ただ言えることは、私の同級生でその後の人生でそのことが影響したものは誰もいなかったことです。（当時の担任の

〔木造講堂取壊し前の写真と思われる〕

先生はその後の人生に影響をしたのかもしれませんが？）それぞれが今まで経験してきた多くのことのただひとつの事象でしかなかったのです。今、教育の問題を報道でよく耳にしますが、たぶんそのことも当人たちにとっては、これから訪れるであろういろいろな経験の一つの事象でしかないんだろうと思います。

去年、高校の一つ上の先輩が53年の生涯を閉じました。その人はもういませんが、私は今ここにいて、この文章を書いています。

「人は生きているんではないですよ。生かされているんです。人の為に生きてください。周りに人がいなかったら、子猫でも可愛がってください。人は生かされているんですよ。」と、言っていた90年以上生きている瀬戸内寂聴の言葉が今でも耳から離れません。

柔道との出会い

第７０回（昭和５３年度）卒業生　大峡　歩（仮屋区）

現在、私は教員として町内の小学校に勤務しています。子どもたちの成長の様子を見ながら、ふと自分の小学校時代を思い出すことがあります。特に、中学年から高学年に上がり、ぐんと成長した子どもたちを目にすると、自分の高学年の頃と重なり感慨深いものがあります。

小学校時代の私は体も小さく、集会での並び順はいつも先頭でした。たまに、二番目になると、すごく嬉しかったのを覚えています。4年生頃までは、勉強、運動、何事においてもあまり自信がありませんでした。走るのが遅かったので運動会の前日はいつも「雨が降って中止にならないかな。」と思っていました。

そんな私も高学年になると、それなりに体力もついてきました。6年生のときには、長距離走が学年で2番になり、町の連合体育大会にも出場することができました。高学年になってからは、いろいろなことにおいても積極性が増したように思います。そして、この頃、私の人生に大きな影響を与えた競技に巡り会いました。柔道です。

5年生の時、スポーツ少年団の柔道が立ち上げられ、週に1回、土曜日の午後に練習が行われるようになりました。当時、ブルース・リーのアクション映画が流行っていて夢中で見ていた私は、「強くなりたい」という一心でさっそく申し込みました。指導されていたのは、地域の接骨院の先生や担任の先生、地域の柔道経験者の方々でした。練習場所は三宅小の体育館で、初めにみんなで畳を運んで敷き詰め、終わるとまた畳を運んで片付けていました。何分、身長も低く、体重も軽かったので、決して強かったわけではありませんでしたが、負けん気だけでやっていたように思います。

そんな柔道との出会いでしたが、忘れられない思い出があります。それは、６年生で県大会に出場したときのことです。団体戦でしたので、体重

（４ページへ続く）

（３ページより続く）
差のある選手とも戦わなければなりません。私の対戦相手は、すごく身長の高い人でした。私はいつものように負けん気で向かっていったのですが、相手は初めから私を見下すかのような態度で、技はかけずにただ力任せに振り回してきました。私は何とか食らいついていこうと必死で戦いましたが、結局負けてしまいました。しょんぼりして先生のところに行くと、一言だけ「力なさやのう。」と言われました。全くそのとおりなのですが、本当に悔しくて、今でも時々思い出します。

私はこの後中学校でも部活動を続け、県大会では個人戦も団体戦も優勝することができました。高校では、国体やインターハイに出場したり、日米交流事業でアメリカに行ったり、貴重な経験をすることもできました。教員になってからも、中学校の部活動顧問を長くさせていただくなど、人生の中に常に「柔道」が関わっています。振り返ってみると、あの試合と一言があったからこそ、「強くなりたい。」「大きな相手にも勝ちたい。」という気持ちを持ち続けて練習に取り組み、結果として素晴らしい経験ができたのだと思います。

小学校での柔道との出会いが、自分に自信を与えてくれたことは間違いありません。教えていただいた先生方や一緒に練習をした皆さんに感謝しています。

現在小学生とともに毎日を過ごす中で「自信を持つ」ことが子どもたちの成長にとっていかに大切かということを強く感じます。「縄跳びで二重跳びができた！」「一輪車に乗れるようになった！」など、うれしそうに報告しに来る子どもたちの顔は本当に輝いています。「できる」喜びが自信になり、意欲が高まっていくのが伝わってきます。私も教師として、自分自身の小学校時代を重ねながら、子どもたちに「できる」喜びを一つでも多く味わわせ、自信をつけさせることができるように日々努めていきたいと思います。

三宅小学校　同窓会費　決算報告（見込み）

収入の部

項　　目	金　額（円）	備　　考
前年度繰越	３，６３４	
会費	１２１，５００	３００円×４０５人
入会金	８，５００	５００円×１７人
貯金利息	１２	
計	１３３，６４６	

支出の部

項　　目	金　額（円）	備　　考
事務費	９２０	印刷費
同窓会会報誌	６６，９６０	同窓会会報誌印刷費
維持管理費	５７，９７３	芝生駐車場管理
同窓会事業基金	５，０００	積立
計	１３０，８５３	

差引残高
2，793円（見込み）は、次年度の会計に繰り越させていただきます。　　平成28年3月17日

同窓会事務局住所

〒919－1542
福井県三方上中郡若狭町井ノ口49-11
三宅小学校内
電話:0770-62-0005
FAX：0770-62-0038
電子メール：miyake-es@edu.town.wakasa.fukui.jp

お願い「同窓会名簿について」

同窓会記念誌の今後の発行に向けて同窓会名簿の訂正を行っていきたいと考えています。つきましては、各年代で同窓会を実施された時等に同窓生や知人の消息（転居・死亡）等で確認されたことがございましたら、事務局にご連絡ください。また、正確を期する為に書面にてお届けくださいますようにお願い申し上げます。

編集後記

ここに皆様の母校への思いがこもった「すぎなさん第11号」が完成いたしました。この発行を通して旧交を温めていただけましたら幸いに存じます。最後になりましたが、今後益々の同窓会員皆様方の御健勝を御祈り申し上げます。

平成２８年３月吉日

平成２７年度
三宅小学校同窓会　会報誌編集委員
桜本　吉治（天徳寺区理事　第５７回卒）
三木　康司（天徳寺区理事　第６３回卒）
上田　辰也（若王子区理事　第９２回卒）
瀧　成美　（同窓会幹事）

同窓会会報誌は、三宅小学校ホームページでも配信しています。
http://kore.mitene.or.jp/~s-miyake/